

「V・ファールレン長崎」と 組むことで、活性化を

村崎 浩史 議員

Q 快進撃を続けている「V・ファールレン長崎」との連携を強化するべきではないか。アウェイ（相手）チームのサポーターが2、000人ほど長崎に訪れる試合もある。臨空自治体として、「農家民泊」を活かした観光コンテンツを構築するべきではないか。人口減少地域への「クラブハウス誘致」は活性化が見込める。検討してはどうか。

A 大村市の観光コンベンション協会と綿密に協議し、市内のホテル等の宿泊施設を優先的に活用するとともに、民泊についても積極的に取り組んでいきたいと思う。また、クラブハウス誘致については、大いに検討する課題であると思う。

農業問題について

朝長 英美 議員

Q 全国には10アール以下でも農地取得が可能なのところもあり、島根県雲南市では、空き家付き農地を取得する場合は、1アールか

ら可能とされているが、本市でも可能か。平成21年12月から相続による農地取得も届け出が義務となったが本市の現状は。TPPが本市に及ぼす影響と今後の具体的な支援体制等の対策は。

A 農地の分散防止等の面から1アールの農地取得はできない。相続による届け出義務の履行状況は、平成23、24年度ともそれぞれ22名の届け出があっているが、履行割合については把握していない。TPPの影響は、国、県の試算から8品目が該当し、農業算出額は16億9、600万円に減少する。対策としてエコファーマー等の普及を図り、安全性に特化し、競争力を高め、地産地消の推進に努力する。

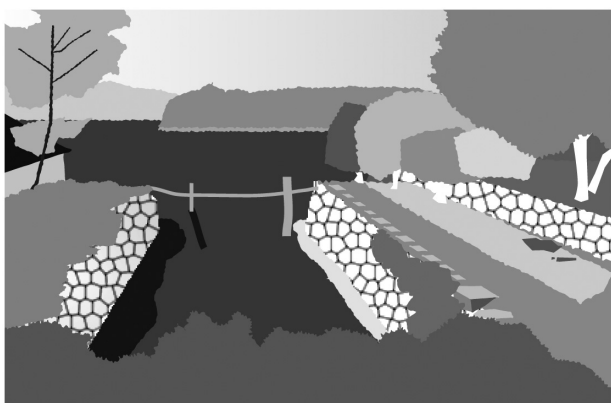
お船蔵跡整備について

川添 勝征 議員

Q 大村公園のお船蔵跡は玖島城が海城であった名残であり、全国の城址の中でも珍しいものだと思うわれる。現在は水深も浅く、葦が生え当時の面影はない。しゅんせつ整備をし、水を入れ観光史跡として光を当てることを提案する。そこに軍船など浮かべ、夜桜

や花火大会の折にかがり火を焚いた演出等を求めたい。市長の考えを問う。

A お船蔵跡については、大変貴重な史跡であるとともに観光資源であると認識しており、しゅんせつ整備については取り組まなければならない課題であると思う。お船蔵跡は県の指定史跡でもあるが、300年前当時を再現し、大村公園の桜や花菖蒲と一体感のある観光スポットとして活用できないか調査研究し、取り組みたいと考えている。



教育・文化・スポーツ

「教育のまちおおむら」で めざせ人口増

城 幸太郎 議員

Q 政府は、国際化社会における人材育成として小学校の英語活動を正式教科に格上げする考えである。また、いじめ対策強化から道徳の教科化も検討している。文科省の指導・指示を待たずに指導要領に大村独自の教育法を取り入れ、他自治体との差別化を図り、大村を教育のまちと位置づけ、将来的な人口増につなげてはどうか。

A 現在、準備している段階であるが、大村を「教育のまち」にしたいと思っている。教育の先進地を目指し、他自治体との差別化を図り、大村の教育というものを示したい。そのためにも、子どもたちが英語のみならず国際感覚を身に付け、大村の先達、偉人に関心を持ち、郷土に誇りを持つことで、郷土愛を醸成し、愛国心を高めたいと思っている。